

平成30年度事業報告書

1) 本部

今年度は、社会福祉充実残額の計画的な使用により、施設壁面塗装工事およびケアハウス、有料老人ホーム間渡り廊下の耐火基準に適応した改修工事、施設洗濯場外のアスファルト陥没箇所の補修工事をおこないました。

また、介護職員にだけ支給されている処遇改善加算金に対して、介護職員以外の職員にも処遇改善として社会福祉充実残高より、支給をしています。

運営面では住宅型有料老人ホームは、20室中18室が埋まりました。残り2室の内一室は、ショートステイでの利用ができるように、地域共生ホームとなっています。

有料老人ホームの入居者が増えるにしたがって、ホームヘルプサービス及びデイサービスの利用登録人数が増え収益がアップしています。

有料老人ホームの入所者に対しては、ユニットケアに近い、一人一人の生活リズムや生活スタイルに合わせたサービスの提供ができました。一方、特別養護老人ホームでは、人員不足により日中の職員に余裕を持たすことができず、日々の介護に追われ、ご利用者の趣味活動等に十分な時間をとることが出来ませんでした。

ケアマネージメントサービスでは、職員3名体制をとっており、担当利用者に対して利用者や家族の要望をふまえた介護サービス計画書の作成および、きめの細かな相談援助をおこないました。

ケアハウスにおいては、周辺に住宅型高齢者施設が増えたせいか入所申込者が少なく満室になることができていません。

特別養護老人ホームにおいては、入所定員は62名となりましたが、入所者の重度化により入れ替わりが激しく、満床を続けることができませんでした。

厨房においては、前委託業者の人員不足による撤退により、委託業者の変更をおこない、セントラルキッチン方式になりましたが、特に利用者からの苦情もなく、以前と変わりない食事提供ができています。

しかし、これまで当施設の管理栄養士が食材の発注業者選定をすることで経費削減ができていたものが、委託業者による完全発注により食材料費や管理費等が今までよりかなりかかっており、経費を圧迫しています。

人材育成面については、ご利用者に安心安全で、信頼される施設となれるよう、職員の質の向上をはかるため、職場外研修の機会を数多く設けました。

平成30年度主な事業実施状況報告

運営面	理事会3回(5月25日 12月10日 3月12日) 評議員会1回(6月14日) 監事監査 1回 (5月10日) 佐賀県長寿社会課指導監査 ケアハウス(10月17日)
人材確保	4名(新卒 介護員2名 中途採用 介護員2名)
施設整備	有料老人ホームケアハウス間、渡り廊下の防火補強工事、施設壁面及び屋根補修塗装工事、施設洗濯場外のアスファルト陥没箇所の補修工事
主な行事	運動会 敬老会 クリスマス会 誕生会 新年会 クラブ活動 物故者供養 バスハイク お茶会 原子力災害訓練
地域交流	大町保育園慰問(12月4日) 大町ひじり学園8年生職場体験(8月23日・8月24日) 杵島商業高校職場体験(10月9日・23日・30日・11月13日、20日) 大町町敬老会(9月20日) 不在者投票(12月12日) 大町町老友会慰問(12月17日) 大町ひじり学園ボランティア(12月21日) 大町町商工会クリスマス慰問(12月25日)
地域貢献	車椅子対応軽自動車及び車椅子無料貸出し、大町町地域ケアネットワーク会議参加、佐賀県地域包括ケア推進会議参加、大町町社協理事及び評議員、大町町地域包括支援センター運営委員、大町町地域福祉計画策定委員、大町町入所判定委員、介護認定審査委員、佐賀県老人福祉施設協議会副会長、佐賀県介護保険事業連合会理事、杵藤地区広域市町村組合地域密着型サービス運営委員、牛津高校・佐賀大学・西九州大学実習受け入れ
広 報	施設版発行、デイサービス月例便り発行
防火対策	昼間避難訓練実施 4月24日 夜間避難訓練実施 10月18日 消火器使用消火訓練実施 4月24日 防火定期点検実施 年2回 非常放送設備保守 電気設備点検(月次点検実施) 消防署立ち入り検査(3月7日)
環境対策	合併処理施設放流水透視度点検(月2回)害虫駆除 年2回 浄化槽検査及び清掃実施 園内草刈清掃実施 受水槽清掃 浄化槽法定検査(特養12月4日)(有料9月18日)
衛生対策	飲料水の水質検査実施(1月31日) レジオネラ菌の定期検査(10月29日 3月25日) ヘアーキャッチャの洗浄殺菌消毒実施
面 会	家族の方へ各行事の案内と面会依頼
預り金管理	月毎に確認管理を行い4半期毎に実績を報告
人材育成	内部研修 (感染症対策、虐待防止、事故防止、接遇、新人研修)

外部研修（延158名を外部研修に参加させました）

1	指導監査ガイドライン研修	38	高齢者虐待の現状と対策
2	介護保険制度	39	社協役員・職員研修会
3	通所介護事業者向け研修セミナー	40	応急手当講習会
4	新任職員研修	41	介護支援専門員杵藤地区研修会
5	介護保険制度改正のポイント	42	誰でもできるレクリエーション
6	県介護支援専門員研修専門1	43	介護事故と介護リスク
7	生活支援体制整備事業研究会	44	地域褥瘡勉強会
8	県長寿社会課集団指導	45	社会福祉法人の経営指標と人事セミナー
9	公正採用選考人権啓発推進員研修会	46	介護現場での記録と報告
10	事務長(事務職員)連絡会	47	特定給食施設栄養管理従事者研修会
11	腰痛予防研修	48	地域ケア多職種ネットワーク会議及び研修
12	ケア職員研修会	49	老施協生活相談員連絡会
13	カイポケセミナー	50	安全運転管理者法定講習会
14	医療介護連携研修会	51	ケアマネジメント研修会
15	介護のための薬の知識	52	デイサービス委員会委員視察研修
16	佐賀県経営協セミナー	53	認知症ケア
17	生活相談員実習指導者研修会	54	佐賀県認知症介護基礎研修
18	生活支援体制整備事業研究会	55	老施協看護職員連絡会
19	九州老施協職員研修発表大会	56	栄養士・調理員職員研修会
20	高齢者虐待防止・身体拘束	57	社会福祉法人消費税、労基法セミナー
21	平成30年度事業所集団指導	58	杵藤地区感染症予防対策研修会
22	認知症 I この対応であっての	59	九州ブロックカンントリーミーティング
23	栄養士・調理員職員研修会	60	平成30年度介護認定調査員現任研修
24	人権・同和問題研修会	61	大町町地域ケア多職種ネットワーク連携部会
25	経営管理委員会研修	62	高次機能障害について
26	軽費ケア施設長研修会	63	平成30年度労務管理セミナー
27	メンター制度導入研修第1部基礎編	64	大町町認知症多職種協働研修会
28	介護等従事職員情報交換会	65	認知症 I この対応であっての
29	佐賀県経営協セミナー	66	決算事務等説明会
30	介護報酬改定の詳細と介護事業戦略	67	九州老施協施設長研修会
31	メンター制度導入研修第2部応用編	68	社会福祉法人監事等研修会
32	30年度介護支援専門員実務再研	69	新たな外国人受入れに係る制度説明会
33	簡単オムツ術	70	抱えない介護・看護の技術研修会
34	佐賀県老施協研究発表	71	大町町成年後見制度活用研修会
35	南部ブロック生活相談員連絡会議	72	訪問介護員・サービス提供責任者研修会
36	原子力災害避難訓練	73	居宅介護支援事業者研修会
37	働き方改革と新処遇改善セミナー	74	デイサービス職員研修

2) 特別養護老人ホームすみれ園

重点実施項目についての状況・結果報告

1. 日常生活の援助

現在、特養の新規入居者は原則要介護3以上の高齢者に限定され、在宅での生活が困難な中重度の要介護者を支える施設としての機能に重点化することとなりました。

また、町内で介護施設が設立され、以前に比べ老老介護世帯や独居世帯に関わる件数が減少しました。利用者が軽度の状態から利用した施設を中度重度となっても、そのまま馴れたところを利用していくパターンが増えました。

このことにより入所の待機者やショートステイの利用者数が減少しています。

1年間の入所者は23名、退所者19名となり、前年度より入所者11名減少、退所者が、16名減少となり、入退所の入れ替わりが減少し、比較的安定した状態となってきております。稼働率で見ますと平成30年度末で、96%の状態、平成29年度末で90.3%でしたので、稼働率は、アップしております。

新規入所者は病院からの入所が26%、特老のロングショートからが17.3%、他福祉施設からが43.4%、自宅からの入所が13%。平成31年3月末現在で、入所者の方の要介護度は57.4%が要介護4、5、42.6%が、要介護3でした。昨年より要介護4、5の方の割合が増加、要介護3の方の割合も増加しています。一方、要介護1、2の特例入所者は、6名となり、前年度ネグレクト、身体的虐待等の被虐待高齢者の受け入れの事例が、増えてきているためとなっています。要介護度平均値は、3.7となっています。

平均年齢は、86.9歳(前年度87.2歳)、平均在籍月数は、3年2.9か月と前年度の2年11.3か月より若干長くなっています。

身体が元気で認知症状が進行した方々の精神的援助、身心の低下による日常生活全般の援助、また胃瘻造設者は2名となりました。

(短期入所者数は別紙記載報告)…稼働率は、68%。昨年の利用率73%より減少。

平均年齢83.2歳、要介護度平均値は、2.8となっています。

2. 行事

行事を通して入居者へ適度な精神的刺激を受けていただくように努めました。

誕生会や季節の行事等の月間行事は行うことができましたが、バスハイクは天候が悪く定期的にできない時がありました。

今年度は秋祭りが中止となった為、お楽しみ会やハロウィンパーティーを開催し、職員の出物やゲームなど楽しい時間を過ごしていただくよう立案、実施しました。

レクリエーションは職員の産休や長期休暇などによる人員不足で不定期で、できる範囲での取り組みになってしまいました。

(各行事については別紙に記載報告)

3. 地域交流と社会参加の場づくり

運動会、敬老会、町内外サークル慰問等により地域交流社会参加の場づくりが出来ました。(ボランティア、研修の受け入れ等については別紙記載報告)

4. 広報活動

広報誌を1回発行いたしました。今後は、年に2回発行を予定したいと思います。今後は、広報活動としてホームページ等インターネットの活用も検討が必要かと思われま運動会、敬老会のご案内や担当介護員からの賀状等を送付しました。

5. 防災活動

H30. 4. 24.....昼間避難訓練

H30. 4. 24.....消火器使用消化訓練実施

H30. 10. 18.....夜間避難訓練

H31. 2. 2.....原子力災害避難訓練

6. 感染症対策

入居者職員の感染予防対策として、年に1回の胸部レントゲン撮影、インフルエンザの予防接種を行い日々の手洗いや嗽の励行、入居者の口腔ケアに努めました。また、感染症予防対策委員会ではノロウイルス感染予防の為の泡洗浄ハイターを使用しての嘔吐物処理方法および手洗い方法のビデオによる研修を行いました。また、必要物品や手順の確認を再認しました。

また、手洗いについて十分行われているか、保健所より手洗いチェッカーを借用し、各自洗い残しがないかの確認を行いました。

食事前の手拭き、消毒の徹底や食後に新しいお絞りを提供し清潔保持にも努めました。

インフルエンザ感染予防の為3月末までマスク着用、職員通用口の体温計、手指消毒を行いました。

清潔と不潔の混合について手順や改善策をマニュアル化していきました。

7. 事故防止対策

1年間の統計結果として、転倒事故が多く、事故発生の時間帯は16時～18時が一番多く、次に7～9時、10時～12時、13時～15時の時間が多かったです。食堂への移動介助や食事介助のため、職員が十分な見守りが出来ず、急な立ち上がりによる転倒や、歩行時にバランスを崩され転倒されることが多くあげられました。

臥床中の転倒事故を未然に防ぐために離床センサー1名、足元センサー15名の方に使用し転落、転倒の予防に努めており、夜間の事故は減少しています。

自走や移乗される方には、常時センサーのスイッチを入れて事故発生予防に努めました。

事故発生場所としては、食堂が一番多く次にコーナー付近、死角になる所が多くみられました。

事故報告の内容は、転倒の次に、皮膚剥離が多かったです。入居者の予測できない行動で起きた事故もありましたが、見守り不足や不適切な介助方法により起きたケースもありました。

生活の場である介護施設では転倒を始めとする事故を0にすることは困難です。事故と発生時刻との関係では、職員の配置との関連性が高いといえます。

以上のことから、入居者個々の日常生活動作能力を把握して、職員一人ひとりが常に安全を意識して、介護をすることが必要です。

また、事故を未然に防ぐためヒヤリハットの活用、ヒヤリハットを書ける環境づくり、職員の意識付が必要です。事故には何らかの原因が潜んでいる為、今後も事故防止委員会を中心に、事故要因分析を行っていき、事故の起こりそうな場面の安全対策を行っていきます。

8. 高齢者虐待防止対策

5月6日に心理的虐待、身体的虐待が発生し町福祉課よりの調査により、改善計画の見直しを行い、自分自身と向き合うため、毎月虐待の芽や不適切ケアの自己チェックを行ないました。

8月には、外部より講師を招き高齢者虐待についての講習会を開催し、虐待再発防止について考え、不適切なケアについての定義、言葉遣い、また仕事のストレスを利用者にむけていないかなど考える場を設けました。その後も部署内での研修会を開催しました。

9. 夢かなえについて

入居者本人様からの意向があったことに対しては取り組むことができましたが、スタッフの長期休暇や職員減で、なかなか積極的に取り組むことが出来ませんでした。

(内容は別紙記載)

10. 家族との交流について

入所時には積極的な面会をお願いし、遠方在住のご家族に対しては広報誌等の送付により生活状況をお伝えしてきました。行事の中でも運動会のご家族の参加が一番多く入居者、職員が一つになって盛り上がる交流の場となっています。

御家族様や本人様の要望により、外出や外泊時の援助を行って行きました。

11. その他

慰問、ボランティア、実習受け入れ等については別紙に記載報告

平成30年度 実習、慰問、ボランティア、受け入れ一覧

5月 運動会(佐賀農業高校2名、杵島商業高校2名、西九州大学2名)

8月 大町中学校職場体験2名、西九州大学1名

- 9月 敬老会（大町町琴好会7名） 佐賀大学介護体験実習1名 西九州大学1名
 10月 浮立15名（お供日）、ハンドベル虹の会10名
 11月 社会福祉委員清掃ボランティア7名
 12月 クリスマス大町町商工会ボランティア10名 大町保育園31名
 佐賀農業高校清掃ボランティア10名、大町ひじり学園 21名
 3月介護職員初任者研修（牛津高校4名） 物故者供養（西福寺、1名 檀家さん8名）

特別養護老人ホームすみれ園（ショートステイ利用実績）

月	利用ベッド数	ベッド利用率	1日利用平均
4	191 床	79.5%	6.3 床
5	183 床	73.7%	5.9 床
6	167 床	69.5%	5.5 床
7	218 床	87.9%	7.0 床
8	159 床	64.1%	5.1 床
9	134 床	55.8%	4.4 床
10	155 床	62.5%	5.0 床
11	172 床	71.6%	5.7 床
12	193 床	77.8%	6.2 床
1	202 床	81.4%	6.5 床
2	124 床	55.3%	4.4 床
3	105 床	42.3%	3.4 床
平均	167 床	68.0%	4.9 床

平成30年夢かなえ

月日	場 所	内 容
10月10日	ゆめタウン武雄 スシロー	本人様より普段ゆっくり買い物ができない、自分で買いたいと希望がある。また、寿司が好きだから寿司を食べに行きたいと希望があって引率しました。まず、スシローでサバやアジの握りやうどんを食べられ「美味しかった」と満足されていました。その後に衣類や小物を購入され大変喜んでおられました。職員1名（ボランティア2名）
10月25日	ゆめタウン武雄	例年の本人様希望で自分で選んで買い物をしたいとの希望があって、引率しました。 衣類、日用品、CD等を購入される。又店内の飲食コーナーで自分が好きな軽食を食べられ満されていました。 来年もまたお願いします。との希望がありました。 職員1名同行する。（ボランティア2名）

平成30年度 年間行事

4月27日	つつじ見学	10月19日	バスハイク(コスモス見学)
4月29日	誕生会(誕生者4名)	10月21日	誕生会(誕生者7名)
5月13日	母の日(54名)喫茶(プリン等)	10月28日	ハロウィンパーティー
5月20日	運動会	11月12日	バスハイク(紅葉見学)
5月27日	誕生会(誕生者7名)	11月25日	誕生会(誕生者5名)
6月17日	父の日(13名)	12月23日	クリスマス会
6月17日	喫茶(ノンアルコールビール・つまみ)	12月30日	誕生会(誕生者2名)
6月21日	紫陽花見学	12月30日	門松づくり、餅つき
6月25日	誕生者(誕生者4名)	1月1日	お屠蘇会
7月 8日	七夕祭り	1月10日	初詣(八坂神社)
7月29日	誕生会(誕生者5名)	1月27日	誕生会(誕生者7名)
8月19日	喫茶(かき氷)	2月3日	節分・豆まき
8月26日	誕生会(誕生者3名)	2月24日	誕生会(6名)
9月2日	お楽しみ会	3月3日	ひなまつり
9月20日	大町町敬老会(3名出席)	3月25日	物故者供養(14名)
9月24日	すみれ園敬老会	3月31日	誕生会(誕生者10名)
9月26日	バスハイク(彼岸花見学)		
9月30日	誕生会(誕生者6名)		

すみれ園（給食管理）

業務報告

1. 食事提供について

H30年度より、給食委託業者を西日本フードサービス(株)から日清医療食品(株)に変更となりました。調理員人員不足のため、提供方式もクックサーブ方式からセントラルキッチン方式となりました。そのためこれまで、セレクトメニューや、季節やイベント毎等の行事食を取り入れてきましたが、それらのことを行うことができませんでした。

また食事については、献立内容や味付け、彩り、見た目など、問題となることが多く、できる範囲での改善ではありますが、努めてきました。喫食時間の変更もしましたが、各部署の協力のもと、スムーズにいくことができました。ただ、現在も人員不足が続いている中、食事を安定して提供することができましたので、大きな決断ではありましたがその点においては良かったと思います。

個別対応食として、個々人の身体状況に合った食事を看護師、介護職員、栄養士の話し合いのもと提供しました。

また、血液検査、体重測定等の結果のもと、栄養状態の思わしくなかった方には、栄養補助食品等で対応し、栄養状態の改善に努めました。

食事形態について、刻み食を改善しようとムース食を開始することができました。見た目や硬さの安定など様々課題はありますが、今後も取り組んでいきます。

2. 調査について

入所者の個人別食事摂取調査を毎食介護員、看護師等の協力のもと実施し、それをもとに月平均を出し、問題のある方については多職種と話し合い、改善出来るよう検討しました。

残菜調査については毎食後主食と副食に分けて計量し、記録しました。

セントラルキッチン方式のため嗜好調査は中止し、給食委員会での意見、日頃からの各部署よりの意見を参考に、献立改善・変更に努めました。

3. 衛生について

厨房内の清掃は常に心がけ、月1回のフード清掃、グリーストラップ清掃と年2回の大掃除も含め、努めました。

厨房内の水質検査は朝・夕(就業前と後)に実施し記録しました。

検便については、調理従事者は毎月1回実施し、そのほかの職員については食中毒予防と健康診断をかねて年4回(6・9・1・3月)実施しました。

※施設長・在宅ケアマネージャー・支援・事務職員は3月、9月実施

4. サービスの課題

食事については、上記にも記したように委託先と提供方式の変更をしました。献立の内

容に関しては、改善すべき点とし意見をいただいているので、現地で対応できるものは、今後も対応し、日清医療食品側にも意見を伝えていきたいと思ひます。

以前からゼリー食に取り組んできましたが、H30度はムース食として開始することができました。まだ、見た目や、硬さ、味等については意見をいただひますので、今後も改善していかれたらと思ひます。

入居者様・利用者様は、食べることを楽しみとされています。その点に関しては、期待に答えることができるように、給食・栄養管理スタッフ協力のもと今後も努めていきます。

すみれ園（医務）

全国的に流行したインフルエンザに入所者ばかりでなく職員も罹患し、蔓延したため杵藤保健福祉事務所と杵藤広域介護保険事務所へ連絡しました。

先生方の速い対応や各部署の協力により、短期間で収束することが出来ました。

今年度の死亡退園の方は13名で、13名の方はすべて当園で看取っています。

病院での継続治療が必要なため退所となられた方は、7名でした。

中には終末期の状態に入所された方もいらっしゃいます。本人やご家族様が「終末期はできるだけ自然に、苦痛のないように」と考えていても目の前の本人に起こる食欲低下や意識低下などに対して、自宅だと不安だと感じる方が多いと思います。

家族の身体的・精神的負担が緩和される看取りの場所として、今後施設を選択される理由の一つになっていくのではと思います。

・状態に応じたバイタル測定

・健康診断	ホームと長期ショート利用者の結核健診	年1回
	ホームと長期利用者の血液による内科検診	年1回
	体重測定	月1回
	全職員の健康診断	夜勤者 年2回
		夜勤者以外 年1回

・リハビリ 音楽 生活リハビリの実施 毎日

・予防

1 インフルエンザ

予防接種の実施（ホーム入所者・ショート利用者・職員）

利用者のインフルエンザ罹患患者数	ホーム利用者	18名
	ショート利用者	1名

職員の罹患による出勤停止者数	6名
----------------	----

職員のご家族（同居）が罹患し、予防薬で出勤	4名
-----------------------	----

2 嘔吐下痢症

施設利用者による嘔吐下痢罹患患者数	0名
-------------------	----

職員の罹患による出勤停止者数	0名
----------------	----

職員の家族による出勤停止者数	5名
----------------	----

3 その他の感染症による出勤停止者数	0名
--------------------	----

4 職員の麻疹ワクチン接種	対象者なし
---------------	-------

5 高齢者の肺炎球菌ワクチン接種者数	10名
--------------------	-----

・入院者数

内科	(12名)	脳外科	(2名)	整形外科	(5名)
----	-------	-----	------	------	------

30年度の死亡者数

ホーム利用者（12名）

ショート利用者（1名）

*当園での看取り者数（13名）

入院治療希望でホーム退所（7名）

・施設内研修

褥瘡予防研修会	年3回
褥瘡予防対策委員会	隔月
感染症予防対策委員会	隔月
衛生管理委員会全体研修	年2回
誤嚥・看護師不在時・夜間緊急時の研修	年2回
ターミナル研修	年1回
ケア連携研修	年1回

・施設外研修 3件

3) デイサービスセンター すみれ園

平成30年度の実績として、年間サービス実施日数は今年度も昨年同様310日でした。利用者の延登録人員は7,703名(前年度6,028名)延実利用人員は7,202名(前年度5,671名)と登録数、実利用者数共に大幅に増えています。

ただ利用率としては、93.4%(前年度94.0%)とやや低くなりました。利用者増員の要因として考えられるのは、有料老人ホームの入居者が増え、生活が安定し定着して来た事が一番と思われます。

1日の利用定員枠も25名から30名と広げ、入院、他施設入所等に伴いばらつきはありますが、年間通して1日平均利用者が20名(前年度18.3名)を超えています。

今年度は体験利用者が増え、ほぼそのまま利用に繋がっている事も実績の一つです。

昨年度リハビリスペースを設けた際には、利用される方が少なく反省点として挙げていましたが、今年度は、自らリハビリを希望される方もおられ、これをきっかけに利用される方が増えて行くよう、今後も必要性を訴え続け、計画的に実行して行きたいと思えます。

利用者については、高齢化率が益々上がり、90歳以上の方の割合が大半を占めている状況です。中には70代の方もおられ年齢層の幅があるのも特徴的でした。要支援者の割合としては、やや増加したものの、昨年と比べ極端な差はありません。

要介護者については、「介護度3」から「介護度1」へ大幅に改善された方もおられ、全体的に介護度が軽い方が増えて来ています。

しかし要支援者であっても、高齢で体力的に低下されている方が多く、利用者一人一人への介護量は増している状況です。

それに伴い、昨年同様、休憩する場所の不足が大きな課題でした。認知症の方の中には、利用者同士のトラブルも多く発生し、仲介する事も多々ありました。

午後の行事については昨年から見直しを行いレクリエーションに力を入れて来ました。誰でも参加出来るようなレクの種類を増やして行き、実績としても今年度は自然にレクへ参加される利用者が増えて来ました。また、カラオケは週1回曜日を決め実施しましたが、今年度はかなり定着して来たようです。参加者も徐々に増えて来ています。

その反面、中には体操以外の行事は全く参加せず、最後までソファで過ごされる方もおられた為、今後は誰一人退屈する事なく過ごして頂けるよう内容の検討が必要と思えます。集団で行うリハビリ体操については、例年同様、ラジオ体操を始め、毎日異なるプログラムで実施しました。年間通して参加状況を見て来ました。毎日ほぼ全員の方が参加されていました。

実際、歩行状態が改善された方もおられた為、引き続き新たな体操も取り入れ実施して行きたいと思えます。

ただ、機能訓練加算を視野に入れた、個人対象で行うリハビリについては、声掛けをしても中々受け入れられず、まだまだ定着していないのが現状です。

食事については、残念ながら、前年度までの高評価は少なく、利用者の中には「何か今までと違う、味に変化が無い、いつも同じメニュー」等厳しい意見も聞かれています。やはり食事提供の仕組みが変わった事が要因の一つだと考えられます。介助面と言う

と直接摂取介助を行う方は減り、遠目での見守りや声掛けを行って来ました。時には咽られる方もおられましたが、幸い吸引器具を使用するような大事には至りませんでした。今後も誤嚥には十分に目を配り、注意を払う必要性があります。

入浴については、常に利用者の安全と身体清潔に努め実施して来ました。又高齢化による身体面の重度化で一人一人に時間はかかりますが、事故や怪我が無いよう日々神経を集中させ対応行いました。浴後は皮膚の変化を見逃さないよう気を払い、必要な処置も適切に行いました。浴後の貼り薬や軟膏塗布の利用者も急激に増え、処置に追われる現状があります。

利用中、心身の状態の変化に気づいた時には家族や担当者への報告を怠らないよう努めて来ました。

排泄については、出来る限り失敗が無いよう、時間毎に声を掛け、誘導して来ました。チェック表の記載をする事で、その方の排泄のタイミングを見計らう事が出来ています。排泄時に介助を必要とする方が増えましたが、失禁は極端に減少しています。

バスハイクについては、季節感を感じて頂きたく、実施しました。ただ、喜ばれる利用者がいらっしゃる反面、年々体力面で低下されている方が増え、参加希望者も減り続けています。また、実施しても、行先場所でのトイレ誘導の問題が大きな課題になっています。今後、念入りな計画を立て、実施して行く必要があると反省しています。

今年度も夢かなえ事業については、実行出来ておりませんが、今後は利用者の希望と体力に応じた内容での計画が必要と思われます。

今年度は、新規利用者も増え、その上利用者自体の変動も少なく、年間通して利用数が安定していたように感じます。

今後も引き続き現状のサービスを提供しつつ、悪い所は改善し、良い所は今以上に向上したサービスが提供できるよう努めて行きます。

反省点として来年度は、もっと必要性を訴え、利用者の状態に応じたリハビリを計画的に行っていきます。

また、娯楽用具の設置も必要性を感じています。

利用者については、高齢化率は年々上昇し、利用者の大半が90歳を超えておられ、認知症を患う方も比例して増えています。

要介護者の割合は昨年とほぼ変化ありませんが、要支援の方は更に減少し、今年度末には要支援1が1名、要支援2が3名となっています。

現在は要支援の方でも要介護者の方同様支援が必要な状態です。午前午後に限らず、ベットやソファで横になる方も増え、休憩所が不足している事も現実です。

認知症の方については、症状は様々で、中には予測のつかない言動や行動を見せる方もおられました。その為一人一人の状態を十分に把握して対応出来るよう努めて来ました。

また、身体的に不自由な方については、残存機能維持及び向上が出来るよう努めました。

今年度は、毎年マンネリ化していた午後の行事を少し改善し、手工芸や月3回の集団レクに加え、レクリエーションの機会を増やしました。週3回は希望に応じレクリエーションや

カラオケ、または、手工芸を選択して頂くようにしました。最初はレクリエーションやカラオケに関心が無い女性の方も反省点としては、認知症の方の状態に応じたレクリエーションや手工芸を見出せず、来年の課題となりました。

今年度は、利用者の殆どが有料老人ホームの入居者であり、居住空間も年間通して空調で管理されているせいか、体調を大きく崩す方が少なかったように感じます。実際、登録人員と実利用者の差が昨年度に比べ半減しました。

今後も出来る限りのサービスで心身状態の低下を予防し、少しでも長く在宅での生活を続けて頂けるよう、生活リハビリの強化にも努めて行きます。地域の中で、家族の介護負担の軽減を図るとともに、独居の方が安心して楽しく自宅での生活を続けていけるように、今後も個人の心身の状態に合わせた支援・介護ができる専門の職員の教育に、努めて行きます。

平成30年度デイサービスすみれ園 保険外利用一覧

月	介護度	実人数	延人数	利用料	合計
4月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
5月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
6月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
7月	要介護	1人	1人	830円	830円
	要支援	0人	0人	0円	
8月	要介護	0人	0人	0円	830円
	要支援	1人	1人	830円	
9月	要介護	1人	1人	830円	830円
	要支援	0人	0人	0円	
10月	要介護	2人	2人	1,660円	1,660円
	要支援	0人	0人	0円	
11月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
12月	要介護	3人	3人	2,490円	3,320円
	要支援	1人	1人	830円	
1月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
2月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
3月	要介護	0人	0人	0円	0円
	要支援	0人	0人	0円	
合計	要介護	0人	0人	0円	
	要支援	0人	0人	0円	
	総計	9人	9人	7,470円	

平成30年度デイサービスセンターすみれ園 事業実施状況

実施月	利用回数	延登録人数	延利用人数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	実利用者 計	利用率	1日平均	延入浴 人数	入浴 利用率
4月分	25回	556名	525名	1名	3名	14名	13名	6名	1名	0名	38名	94.4%	21.0名	463名	88.1%
5月分	27回	588名	558名	1名	3名	14名	12名	5名	2名	0名	37名	94.8%	20.6名	465名	83.3%
6月分	26回	597名	553名	1名	4名	14名	12名	6名	1名	0名	38名	92.6%	21.2名	479名	86.4%
7月分	26回	613名	589名	1名	4名	15名	12名	6名	2名	0名	40名	96.0%	22.6名	482名	81.8%
8月分	27回	673名	634名	1名	5名	19名	12名	5名	3名	0名	45名	94.2%	23.4名	534名	81.8%
9月分	25回	654名	630名	1名	6名	21名	12名	4名	3名	0名	47名	96.3%	25.2名	525名	83.3%
10月分	27回	689名	631名	1名	5名	22名	12名	4名	1名	0名	45名	91.5%	25.5名	517名	81.9%
11月分	26回	703名	643名	2名	4名	21名	12名	5名	1名	0名	45名	91.4%	24.7名	530名	82.4%
12月分	26回	648名	594名	3名	4名	23名	11名	4名	1名	0名	46名	91.6%	22.8名	491名	82.6%
1月分	25回	632名	568名	3名	4名	22名	10名	4名	1名	0名	44名	89.8%	22.7名	476名	83.8%
2月分	24回	639名	615名	3名	5名	21名	11名	4名	1名	0名	45名	96.2%	25.6名	531名	86.3%
3月分	26回	711名	662名	3名	5名	23名	11名	4名	1名	0名	47名	93.1%	25.4名	558名	84.2%
計	310回	7703名	7202名	21名	52名	229名	140名	57名	18名	0名	517名	-	-	6051名	-
平均	25.8回	641.9名	600.1名	1.75名	4.3名	19.0名	11.6名	4.7名	1.5名	0.0名	43.0名	93.4%	23.2名	504.2名	84.0%

体験利用1名含む

体験利用1名含む

体験利用1名含む

体験利用2名含む

体験利用4名含む

4) ケアハウスすみれ園

平成30年度は、退居者数 3名、入居者数 2名、入居者の平均年齢88.5歳と、前年比1.3歳増で、入居者の92.3%が80歳以上で高齢化しています。

鬱など精神面の落ち込みが見られる入居者もあり、心身の状態観察、健康管理に努め家族、主治医、担当ケアマネージャーなど関係機関と密な連携に努めました。

入院は、13名中延べ3名。ショートステイ利用が、13名中0名。

退居理由としては、入院後、介助が必要となられ他の施設に入所されたり、入院先で亡くなる方もおられました。

居室稼働率は、近隣に老人施設が増える中、入居者の獲得が年々難しくなって来ています。稼働率の低下は、今後の課題です。

入居者状況(平成31年3月31日現在)

男性	2名
女性	11名
計	13名

男女別年齢構成

年齢	男性	女性	計
60～64	0	0	0
65～69	0	0	0
70～74	0	0	0
75～79	0	1	1
80～84	0	2	2
85～89	0	4	4
90歳以上	2	4	6
計	2	11	13

入居者の介護度

自立:4名

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2	5	2	0	0	0	0

介護サービス利用人数(複数利用あり)

訪問介護	デイサービス	デイケア	福祉用具レンタル	合計
1	6	1	5	13

居室稼働率

- ・退居は原則として月末
- ・年間を通しての稼働率:95.3%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
居室数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
入居者数	13	13	13	14	14	14	14	13	13	13	13	13
新入居者数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
退居者数	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
稼働率	92.9	92.9	92.9	100	100	100	100	92.9	92.9	92.9	92.9	92.9

年間行事については、定例のお茶会、誕生会を行い楽しんでいただきました。バスハイクは日用品の買い物の他、季節の花見・紅葉見学を行い季節感を味わっていただくとともに、入居者間の親睦、気分転換を図ることが出来ました。季節の行事として運動会、敬老会など併設の特別養護老人ホームの行事に参加し、ケアハウス以外の方、地域の方との交流も図れました。防災関係としては、年2回の避難訓練(昼間・夜間)・消火機器の点検・消火訓練実施、防災意識を高めました。

実施行事内容

	行事内容
4月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・避難訓練(昼間)
5月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・運動会
6月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・紫陽花見学
7月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・七夕
8月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)
9月	お茶会・バスハイク(買い物)・敬老会・水質検査(レジオネラ)
10月	お茶会・バスハイク(買い物)・秋祭り・夜間避難訓練(夜間)
11月	お茶会・バスハイク(買い物)・紅葉見学・
12月	お茶会・バスハイク(買い物)・クリスマス会
1月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・お屠蘇会・新年会
2月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・梅林見学
3月	お茶会・誕生会・バスハイク(買い物)・水質検査(レジオネラ)

お茶会(2回/月) バスハイク(1回/月)

今後は、入居者の高齢化に伴い、体調、精神面の変化に留意し健康で安全な生活を送っていただけるように努めるとともに、個々の支援の必要性の見極め、家族、関係機関との細かな連携に努めます。

また、引き続きケアハウスの入居待機者、入居者を得るために関係機関と連携を図り、広報に努めていきます。

5) ホームヘルプサービスすみれ園

平成30年度の利用状況として、訪問介護では有料老人ホームへの入所が増え、新規12名(内7名有料老人ホーム入所)、体力等の低下で施設入所や他界などで5名の方が終了されました。差引7名増加しました。

介護予防では、他界や家族同居等の理由で4名の方が終了しました。新規の受け入れは行なわかった為4名減少しました。これを前年度と比較し介護度別にみると、有料老人ホームへの入所者が徐々に増え、要介護1～3の利用者が増加した事で介護度別利用人員は若干ではありますが0.9%増となりました。

サービス別では8月をピークに、それ以降、利用者の重度化によりが有料ホームでの身体介護の対応が困難になり、数名の方の退所や施設移動などがあり、5.5%の減となりました。

ホームヘルプサービスを取り巻く環境は厳しいが、利用者を囲む社会資源との連携を図り、利用者の残存能力を活用しながら、介護度を悪化させないように自立支援に資するサービスを行いました。

＜サービスの状況＞

①身体介護

入浴介護や清拭は、常に利用者の健康状態を観察チェックし、利用者本人の意志を尊重し、家族、ケアマネ及び主治医の連携のもとで、その状態に応じたサービスの提供に努めました。

②生活援助

利用者の自立支援に心掛け、困難な面での掃除、洗濯、買い物、調理、整理整頓、補修などサービス計画に基づきサービスの提供に努めました。

③介護予防

利用者と一緒に手助けをしながら、掃除、調理、洗濯物干し、たたみなどを行うことにより自立支援を促すとともに、安全確認の声掛けや疲労の確認を行いサービスの提供に努めました。

◇ 介護度別利用人員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
要支援1	8	9	9	9	9	8	8	7	6	6	6	6	91
要支援2	5	5	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	73
要介護1	8	8	9	9	11	12	12	11	12	12	12	12	128
要介護2	5	4	5	5	5	5	5	6	5	6	8	8	67
要介護3	7	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	65
要介護4	1	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	15
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	34	34	36	37	39	39	37	36	35	36	38	38	439

◇ サービス別延べ利用人員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
身体介護	141	154	140	138	170	136	120	112	117	112	111	125	1,576
身体生活	57	58	58	54	62	50	51	49	49	48	43	54	633
生活援助	75	81	67	82	73	76	90	87	84	79	93	86	973
介護予防	73	80	89	101	101	97	90	82	81	70	72	78	1014
総合事業													
合 計	346	373	354	375	406	359	351	330	331	309	319	343	4196

6) ケアマネージメントサービスすみれ園

1. 認定調査

平成30年度も大字大町地区の認定調査を担当しました。1ヶ月の平均調査件数は、約8件と前年度(10件)に比べると依頼件数が減っています。これは大町町内の介護認定を受ける方が減ったという事ではなく、これまで最長で2年間だった介護認定の有効期間が3年に延長されたことによる依頼件数の減少と思われます。今年度は杵藤地区広域からの調査依頼だけではなく、中部広域や県外の市町村からの調査も受託し調査を行いました。

認定調査の際には家族や親族など本人の状態を良く知る人への立ち会いをお願いし、普段の状況を詳しく聞き取りするよう心掛けています。

	調査件数		調査件数
4月	11	10月	8
5月	9	11月	6
6月	8	12月	7
7月	9	1月	15
8月	5	2月	5
9月	5	3月	4
合計	92	平均	7.6

2. 要介護認定者への支援

居宅サービス計画の作成(ケアマネジメント)にあたっては、利用者の生活状況や生活における課題を把握し、利用者の有する能力を最大限に活用しながら、自立支援を目指しました。サービス利用開始後は、毎月自宅で利用者及び家族と面談し、心身状態の把握やサービスが適切に実施されているか等を把握(モニタリング)し、状況に応じ3ヶ月から半年毎にケアプランの評価及び見直しを行いました。

介護保険の更新があった場合は主治医や各サービス提供事業者からの専門的な意見を聴取し、より充実したケアプランとなるよう心掛けています。またホームヘルパーから伝達された服薬状況や口腔状態、健康状態などや訪問時に把握した利用者の心身状態などについては、必要に応じて医師や歯科医師、薬剤師などへの情報提供を行うことで、情報を共有し、利用者の健康状態の維持改善に繋がるよう支援しています。

平成30年度において新規での居宅サービス作成依頼を受けた件数は27件となっています。また平成30年度末までに居宅支援を終了した方が25件となっており、内訳として特別養護老人ホーム入所6名、老人保健施設入所3名、グループホーム入所1名、長期入院4名、死亡5名、要支援への介護度変更4名、その他(自宅療養中でサービス利用なし)2名となっています。

30年度は、居宅支援開始後、短期間での心身状態の悪化による長期入院や施設入所、養護者による介護放棄(ネグレクト)による施設入所など、1ヶ月～3ヶ月程度で居宅支援が終了となったケースも少なくありませんでした。

・居宅サービス計画作成件数

	サービス計画作成件数		サービス計画作成件数
4月	71	10月	76
5月	73	11月	77
6月	72	12月	74
7月	72	1月	75
8月	75	2月	72
9月	73	3月	73
合計	883	平均	73.5

3. 要支援認定者及び自立者への支援

要支援認定を受けた高齢者の介護予防支援については地域包括支援センターより委託を受け、支援を行っています。要支援認定者の介護保険サービスは平成29年度より総合事業として、介護予防支援業務と介護予防ケアマネジメントに細分化されました。

また平成30年度からは要介護認定で自立と判定された方でも基本チェックリストで事業対象者と判定されれば通所介護の利用が可能となったため、地域包括支援センターからの委託を受け、要支援者同様に介護予防ケアマネジメントを行っています。対象となられた利用者にご理解いただけるよう説明を行い、自立した生活を目指しています。

・介護予防サービス計画作成件数

	介護予防支援	予防ケアマネジメント		介護予防支援	予防ケアマネジメント
4月	5	2	10月	6	2
5月	5	2	11月	6	3
6月	6	2	12月	6	3
7月	7	2	1月	5	4
8月	7	2	2月	6	3
9月	7	3	3月	6	3
合計	72	31	平均	6	2.5

7) 在宅介護支援センターすみれ園

1. 配食サービス調査

大町町からの委託を受け、町内の65歳以上の配食サービスを希望する独居高齢者や高齢者夫婦世帯の方を訪問し、実態把握調査を行っています。件数は年々、減少傾向です。

これまで町内全域の調査を行っていましたが現在は大字大町地区の調査を担当し、大字福母地区は他の事業所が調査をされるようになったことから減少していると思われます。配食サービスについては、品数が多く栄養のバランスが良いと喜ばれている方がいらっしゃる反面、長期利用で味に飽きてくるとの声も聞かれます。

・配食サービス調査

	調査件数		調査件数
4月	0	10月	0
5月	0	11月	0
6月	0	12月	1
7月	1	1月	1
8月	0	2月	0
9月	1	3月	1
合計	5	平均	0.4

2. 福祉車両及び車椅子貸与

要介護高齢者の外出支援、在宅生活維持の支援として、平成29年度より町内在住の要介護者を対象に車椅子に乗ったまま乗車できる福祉車両及び車椅子の貸し出しを開始しました。

平成29年度に比べると利用者の減少が見られます。これは、これまで頻繁に利用されていた方が福祉車両を購入されたことに起因すると思われます。また貸し出し可能な福祉車両が1台しかないこと、貸し出している車両が通常業務で使用していることなどの理由から広報していないことも原因の1つと思います。今後の福祉車両の貸し出しの在り方については再検討の必要を感じています。

・福祉車両及び車椅子貸出件数(のべ人数)

	福祉車両	車椅子		福祉車両	車椅子
4月	1	0	10月	0	0
5月	0	0	11月	0	0
6月	2	0	12月	1	0
7月	1	1	1月	1	0
8月	0	0	2月	2	0
9月	2	2	3月	1	0
合計	11	3	月平均	0.9	0.2

2. その他

本来であれば何らかのサービス利用が必要と思われる方であっても、サービス利用を望まれない場合があります。独居で近くに支援して下さるご家族がいらっしゃらない場合も、地域包括支援センター等と連携しながら地域で生活が継続できるよう必要に応じて支援しています。

8) 有料老人ホームすみれ園

平成30年度入居者数と平均介護度

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居者数	15	14	16	15	17	18	18	19	19	20	19	20
平均介護度	2.1	2.7	2.0	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7

入居者の 入所前の状況

入所前独居者……………22% 入所前家族と同居……………0%
 病院からの入所……………67% 施設からの入所……………11%

入居者の在宅サービス利用状況

デイサービス利用……………100% 訪問介護サービス利用……………100%
 訪問リハビリ利用……………10% 福祉用具貸与 ………………19%

平成30年度入所状況

月	入所者数	介護度	月	入所者数	介護度
6月	2名	要介護1、要介護2	11月	1名	要介護3
8月	2名	要介護1、要介護1	1月	1名	要介護2
9月	1名	要介護1	3月	1名	要介護1
10月	1名	要支援2			

入所理由(9名)

- ・認知症の進行により独居生活や家族の不在時の生活が危険になった(2名)
- ・病院で医療的な治療は終了したが心身の状態や住宅環境の問題から在宅生活は困難となった。(4名)
- ・入院とショートステイを利用していたが長期的な利用ができないので入所となった。(1名)
- ・家庭の都合により独居生活を送っていたが高齢、身体機能の低下により入所となった(2名)

平成30年度退所状況

4月	1名	要介護 4	9月	1名	要介護4
5月	1名	要介護4	1月	1名	要介護2

退所理由（4名）

- ・心身の機能の低下により手厚い介護が必要となり、特別用語老人ホーム入所となった(2名)
- ・心身の著しい低下の為、医療介護の対応が必要となり老人保健施設への入所となった。
(2名)

生活の援助について

1. 日常生活の援助について

①食事

業者の委託により食事内容の変化があったが、入居者からの苦情、要望等は聞かれなかった。また、見守りがあれば自力摂取できる入居者ばかりとなった。

②排泄

ほとんどの方が居室トイレで自立できている。時間誘導が必要な入居者に対しては時間に応じて、ヘルパー、有料職員、夜勤者で対応した。
尿意や便意のある方にはその都度トイレで対応出来た。

③環境整備

居室内の清掃はヘルパー利用時に対応してもらい有料職員は施設館内の共有の場の環境整備に努めた。御家族や施設見学者のほとんどの方からハード面では好印象の評価を頂いている。特に施設特有の臭いがしないという声が聞かれる。

中庭の花壇や野菜は入居者が興味を示され季節感を味わえる場所となっている。
入居者の増加と共に職員の手が足りず花壇の整備が今一つできなかった。

④清潔保持

入浴はデイサービス、ヘルパーを利用して頂いた。
リネンの交換や衣類の洗濯、管理については定期的なヘルパー利用にて行った。
朝夕の衣類と寝巻の交換も行うことが出来きメリハリのある生活ができた。

また、デイサービス、ヘルパーと共に手洗い口腔ケアに心掛けており感染症による、眼脂や風邪症状等比較的になくインフルエンザの発生者もいなかった。入居者の身体の清潔も努めることができた。

2. 生活用品、医療費等の金銭管理について

80%近くの利用者が日常の生活費分の金銭管理を依頼されている。

主に生活用品の購入(衣類や電池、石鹼類、好みのおやつ等)や散髪代、医療費などの出納管理を行っている。

3. 健康管理について

入居者の服薬管理、食事、排泄のチェックを行い、また他のサービス機関との情報交換、医療機関への情報の提供を行った。

入居者は高齢の在宅生活者(H30.3 時点で平均年齢は88.2歳)であるので体調不良に対しては、医療機関の休日や診療時間を考慮した上で、早め早めの受診や用心に心掛け主治医の指示を仰ぐように努めた。

1年間の体調の変化による入院者は3名であった。